

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年3月18日

【評価実施概要】

事業所番号	0191000033		
法人名	有限会社敬愛サービス		
事業所名	グループホーム そるぶす豊幌		
所在地	〒067-0027 江別市豊幌美咲町2-2 (電 話) 011-676-6301		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成22年2月17日	評価確定日	平成22年3月18日

【情報提供票より】（平成 22年 1月 15日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	昭和（平成）	19	年	4	月	1	日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人			
職員数	22 人	常勤	15人,	非常勤	7人,	常勤換算	15.6 人

（2）建物概要

建物構造	木造 モルタル 造り	
	2階建ての	1～2 階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	40,000 円	その他の経費（月額）	20,000～28,000 円
敷 金	有（ 円）	（無）	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（ 円） （無）	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

（4）利用者の概要（ 1月 15 日現在 ）

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	5	名	要介護2	8	名
要介護3	3	名	要介護4	1	名
要介護5	1	名	要支援2	0	名
年齢	平均 84.9 歳	最低	68 歳	最高	94 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	野幌病院 野幌たちばな歯科
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、利用者一人ひとりが充実した地域生活を過ごせるよう支援することに運営者、管理者、職員が一丸となって取り組んでいる。利用者の思いに寄り添いながら、生活リハビリを重視するケアの実践は、利用者の精神と身体機能の維持、向上につながっている。地域住民や同業者と協働しながら、利用者がその有する能力を最大限に活用し、事業所内及び地域の中で役割を担い、生き生きと過ごせる環境づくりに日々工夫を重ねている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4） 前回の評価では、利用者の思いや意向の把握、介護計画の作成と見直し等が改善課題として挙げられたが、管理者と職員の取り組みによって改善している。また、その他の部分については、より質の高いケアサービス提供に向けて取り組みを継続している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 管理者や職員は評価の意義を理解し、全職員で自己評価に取り組んでいる。利用者が質の高い日常生活を維持できるよう会議で話し合いを重ね、より質の高いケアサービスの提供に向けて改善に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6） 運営推進会議は、利用者、家族、町内会長・区長、地域包括支援センター職員、民生委員、事業所職員を構成員として、2ヶ月毎に開催している。会議では、事業所側の活動報告にとどまらず、運営に対する意見交換や協力要請を活発に行っており、防災訓練時の協力が得られるなど、事業所運営に反映している。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8） 職員は家族来訪時に意見や要望の聴取に努め、運営推進会議や行事参加の際には、必ず別に時間を設けて家族と話し合う機会を作っている。家族からの苦情は、ほとんど見られないが、相談内容によっては会議で検討し、より良いサービス提供へつなげている。また、内部、外部の苦情相談窓口を明示するとともに、より良い事業所運営に向けて家族アンケートの実施も検討中である。
重点項目③	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
重点項目④	地域行事や清掃活動、花植えなどの地域活動に積極的に参加し、近隣住民や自治会、民生委員との交流を深めている。地域の夏祭りには事業所として利用者とともに出店し、地域住民と直接的な交流を図るなど、地域との関係強化に取り組み、必要時にボランティアの協力が得られる良好な関係形成につながっている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念に「地域の中で、人間としての生活が保てるように援助します」と謳い、地域密着型サービスの実践に日々努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者や職員は、理念を職員会議で唱和したり常に目に触れる日誌に記載するなどして、日常的な意識化を図っている。また、利用者の尊厳を尊重するケア、地域に積極的に出ていく実践を重ねながら理念を具体的なサービスとして提供することに日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事や清掃活動、花植えなどの地域活動に積極的に参加し、近隣住民や自治会、民生委員との交流を深めている。地域の夏祭りには事業所として利用者とともに出店し、地域住民と直接的な交流を図るなど、地域との関係強化に取り組み、必要時にボランティアの協力が得られる良好な関係形成につながっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や職員は評価の意義を理解し、全職員で自己評価に取り組んでいる。利用者が質の高い日常生活を維持できるよう会議で話し合いを重ね、より質の高いケアサービスの提供に向けて改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、利用者、家族・町内会長、区長、地域包括支援センター職員、民生委員、事業所職員を構成員として、2ヶ月毎に開催している。会議では、事業所側の活動報告にとどまらず、運営に対する意見交換や協力要請を活発に行っており、防災訓練時の協力が得られるなど、事業所運営に反映している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は介護保険課や保護課の担当者と頻繁に情報交換するとともに、グループホーム代表者会議と地域包括支援センターと共催の研修会を行うなど、協働してサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に利用者の状況を伝えるとともに、写真を掲載している機関紙を2ヶ月毎に発行し、3ヶ月毎に個別便りを送付するなど、丁寧な状況報告を実践している。また、利用者の健康状態に変化があった場合には、緊密な報告、連絡を図っている。金銭出納状況の報告も明確に行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は家族の来訪時に意見や要望の聴取に努めるとともに、運営推進会議や行事参加の際には、必ず別に時間を設けて家族と話し合う機会を作っている。家族からの苦情は、ほとんどみられないが、相談内容によっては会議で検討し、より良いサービス提供へつなげている。事業所では、家族からの意見や苦情はサービスの質の向上に有効と考えており、今後は、個別の家族アンケートを実施するなどして、意見や要望の吸い上げを計画している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は馴染みの関係の重要性を認識しており、離職を最小限に抑えるため、資格取得や研修の奨励、厚い人員体制などの職場環境の整備に努めている。ユニット毎に職員を固定し、異動に際しては十分な引き継ぎ期間とベテラン職員によるフォロー体制をしき、利用者へのダメージを最小限に抑える配慮をしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員のスキルアップや資格取得に積極的に取り組み、段階に応じた外部研修の受講機会を確保している。毎月行う内部研修は職員の能力に応じてプレゼンテーション力を育むことから始めて、徐々に専門知識を深化していく方針で実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホーム代表者の集いを開き、職員も交えた研修会の実施、事業所間の相互訪問など、多彩な交流を図っている。利用者同士が交流を楽しむパークゴルフ大会、それぞれの行事への利用者参加を企画するなど、協働してサービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用に際しては、事前に見学や職員が訪問するなどして本人や家族と十分に面談する機会を設け、不安の軽減に努めている。ティータムの同席や必要に応じて体験利用の機会を設け、事業所の雰囲気や職員に慣れてからのサービス開始となるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者のできない部分を支援しながら、日々の暮らしの中でこれまで利用者が培った生活の知恵や体験談から学びながら、互いに喜びや辛さを分かち合い、支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の生活歴や暮らし方の希望を事前に十分把握するとともに、その時々々の要望を細やかに聞き取り把握することに努めている。また、利用者の自己決定を尊重しながら利用者本位の暮らし、利用者の意向に沿った暮らしの実現に取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式のアセスメントシートを用いて利用者の課題を抽出し、全職員参加の会議で検討を加えている。医師や看護師の意見も採り入れ、それぞれの意見やアイデアを反映した本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月毎に再アセスメントを行い、現状に見合った介護計画として機能しているか見直しを行っている。利用者の状況に変化が生じた場合には、主治医、家族、本人の了解のもと、新たな介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況に応じて、受診付き添い、訪問理美容の支援など柔軟な支援を展開している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療に加えて、24時間相談可能な協力医を確保している。診療科目によっては以前からのかかりつけ医への受診も支援している。看護職員の配置により日常の健康管理が行き届いており、医療機関とスムーズな連携を図りながら適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時に重度化した場合の対応指針を利用者や家族に説明しており、状況に応じて、その都度検討しながら関係者全員で方針を共有している。職員教育の一環としてターミナル期における利用者や家族への接し方をレクチャーし、希望に沿う支援ができる体制を整えている。今後は、個別の意向確認書や同意書等の整備に着手する方針である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者一人ひとりを尊重し、気持ちや誇りを傷つけない接遇に努めている。個人記録の取り扱いや管理にも配慮をしており、職員とは個人情報保護に係る誓約書を交わし、家族とは個人情報利用時に係る同意書を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの希望やペース、能力を見極めながら、個性を尊重した無理のない暮らし方を支援している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物から下準備、盛りつけ、後片づけまで利用者の力を発揮できる機会を設け、職員と一緒に食事の支度に取り組んでいる。事業所の菜園から収穫した食材を使ったり、献立に利用者の要望を採り入れたり、食器に陶芸で利用者本人が絵付けしたものを使うなど、食事が楽しみとなる支援を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に応じて毎日入浴でき、時間帯も午後7時まで入浴できる職員配置となっている。入浴順や時間帯など、利用者の希望を尊重しながらゆったりとした入浴支援を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の一人ひとりの能力に応じて、家庭菜園や掃除、洗濯物たたみ、調理、雪かき等で力を発揮する場面を設け、役割や張り合いのある暮らしを支援している。多彩な外出レクリエーションや行事を実施し、事業所での暮らしに変化と楽しみを提供している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調や天候を考慮しながら、散歩や買い物など利用者の希望に応じた外出支援を行っている。週1回の外食に加えて、いちご狩りや海水浴、祭り、ホワイトイルミネーション、雪祭り、陶芸等の行事への外出では参加型行事を重視し、利用者の大きな楽しみとなっている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び管理者、職員は鍵をかけることの弊害を十分理解しており、日中玄関を施錠することはない。利用者の言動に注意しながら、見守りを強化して利用者の自由な暮らしを支援している。外部からの不審者侵入は、センサーで感知できるようにしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害発生に備えて避難誘導訓練を春と秋に行い、職員の防災意識を高めている。夜間想定 の訓練、非常時の通路確保や避難場所、非常食の確保、地域住民との連携強化を図り、非常時に備えている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ホーム長が栄養士の資格を持っており、栄養バランスの取れた食事を提供している。水分摂取量は個別に記録し、一日を通じて過不足なく摂取できるよう支援している。嚥下機能や体調に応じて、ゼリー食や粥食、刻み食を提供するなど細やかに配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々としたリビング・ダイニングには応接セットを置き、利用者がゆったりと過ごせる居心地の良いスペースとなっている。広い廊下には床暖房を施したベンチ・シートを設け、利用者同士や家族が談笑できる場所として活用している。玄関には吊し雛、ユニットごとに雛人形を飾るなど、季節感を採り入れた装飾を随所に施している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や馴染みの生活用品、大切な品を自由に持ち込み、その人らしい居心地の良い居室となるよう配慮している。居室の模様替えも職員見守りの中、自由にできるように支援している。		

※  は、重点項目。